

JP10117905

Publication date: 1998-05-12

Inventor(s): YAMANAKA TSUYOSHI

IPC Classification: A47G9/00

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a pillow for lying prone without pressurizing the face including the eyes, the nose, and the mouth in the case of lying in bed prone by turning the face downward.

SOLUTION: A pillow 2 for lying prone is provided with a forehead support part 12 for supporting the forehead and a chin support part 14 for supporting the chin, and the forehead support part 12 and the chin support part 14 are arranged in such an interval as being fitted for the size of the face of an ordinary person so that a face circumference space part 16 having the depth sufficient for not pressurizing the face is formed between the forehead support part 12 and the chin support part 14. Use of this pillow 2 for lying prone supports the head of a user by the forehead support part 12 and the chin support part 14 and inserts the face including the eyes, the nose, and the mouth into the face circumference space part 16. This face circumference space 16 has the sufficient depth not to pressurize the eyes, the nose, and the mouth so as to eliminate the eyes, the nose, and the mouth from being pressurized and therefore the user can comfortably sleep with the face turned downward.

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-117905

(43) 公開日 平成10年(1998) 5月12日

(51) Int.Cl.⁸

A 4 7 G 9/00

識別記号

F I

A 4 7 G 9/00

A

審査請求 有 請求項の数 4 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平8-276141

(22) 出願日 平成 8 年(1996) 10月18日

(71) 出願人 596150530

山中 津興志

愛知県尾西市明地字第43番地14

(72) 発明者 山中 津興志

愛知県尾西市明地字第43番地14

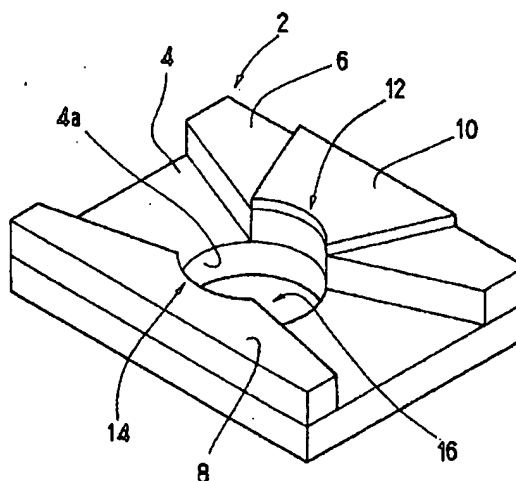
(74) 代理人 弁理士 岡田 英彦 (外 5 名)

(54) 【発明の名称】 うつ伏せ寝用枕

(57) 【要約】

【課題】 顔面を下に向けてうつ伏せ状態で寝る場合において、目、鼻、口を含む顔面を圧迫することがないうつ伏せ寝用枕を提供する。

【解決手段】 うつ伏せ寝用枕2は、額を支持するための額支持部12と、顎を支持するための顎支持部14とを有し、額支持部12と顎支持部14とが通常人の顔面の大きさに合わせた間隔で配置されることによって額支持部12と顎支持部14との間に顔面を圧迫しないだけの深さを有する顔面周囲空間部16が形成されている。かかるうつ伏せ寝用枕2によれば、使用者の頭部は額支持部12と顎支持部14とで支持され、目、鼻、口を含む顔面は顔面周囲空間部16内に入れられることになる。この顔面周囲空間部16は、顔面を圧迫しないだけの深さを有しているため、目、鼻、口が圧迫されることがなく、使用者は顔面を下に向けた状態でも快適に寝ることができる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 顔面を下方に向けてうつ伏せに寝るために用いられる枕であって、

額を支持するための額支持部と、

顎を支持するための顎支持部とを有し、

前記額支持部と前記顎支持部とが前記顔面の大きさに合わせた間隔で配置されることによって前記額支持部と前記顎支持部との間に前記顔面を圧迫しないだけの深さを有する顔面周囲空間部が形成されていることを特徴とするうつ伏せ寝用枕。

【請求項2】 請求項1に記載のうつ伏せ寝用枕であって、

前記顔面周囲空間部を外界に連通させる外界連通口を設けたことを特徴とするうつ伏せ寝用枕。

【請求項3】 請求項1に記載のうつ伏せ寝用枕であって、

前記額支持部が前記顎支持部より高くなっていることを特徴とするうつ伏せ寝用枕。

【請求項4】 請求項1に記載のうつ伏せ寝用枕であって、

前記顔面周囲空間部を前記うつ伏せ寝用枕を貫通する貫通穴として設けたことを特徴とするうつ伏せ寝用枕。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、顔面を下方に向けてうつ伏せに寝るために用いられるうつ伏せ寝用枕に関する。

【0002】

【発明が解決しようとする課題】網膜剥離の手術後等においては、数日間顔面を下に向けたままのうつ伏せ状態で寝る必要がある。この際、従来の通常の枕を用いた場合には、顔面が頭部の重みで枕に押し付けられるために、鼻と口が圧迫されて呼吸が苦しくなり、十分な睡眠を取ることができないばかりか、長時間この姿勢を続けることによって非常な苦痛を覚えるという問題点があった。また、網膜剥離の手術等のように目の手術をした後においては、眼球が枕に押し付けられることは好ましくない。そこで、本出願の請求項1乃至請求項4に係る発明においては、顔面を下に向けてうつ伏せ状態で寝る場合において、目、鼻、口を含む顔面を圧迫することがないうつ伏せ寝用枕を提供することを目的とする。また、請求項2に係る発明においては、使用者がより息苦しさを感ぜることがないうつ伏せ寝用枕を提供することを目的とする。さらに、請求項3に係る発明においては、頭部をより安定して支持することができるうつ伏せ寝用枕を提供することを目的とする。また、請求項4に係る発明においては、より容易に製作することができるうつ伏せ寝用枕を提供することを目的とする。

【0003】

【課題を解決するための手段】そこで上記の課題を解決

するために、請求項1に係る発明においては、顔面を下方に向けてうつ伏せに寝るために用いられる枕であって、額を支持するための額支持部と、顎を支持するための顎支持部とを有し、前記額支持部と前記顎支持部とが前記顔面の大きさに合わせた間隔で配置されることによって前記額支持部と前記顎支持部との間に前記顔面を圧迫しないだけの深さを有する顔面周囲空間部が形成されていることを特徴とするうつ伏せ寝用枕を創出した。かかるうつ伏せ寝用枕によれば、使用者の頭部は額支持部と顎支持部とで支持され、目、鼻、口を含む顔面は額支持部と顎支持部との間に形成される顔面周囲空間部内に入れられることになる。この顔面周囲空間部は、顔面を圧迫しないだけの深さを有しているため、目、鼻、口が圧迫されることがなく、使用者は顔面を下に向けた状態でも快適に寝ることができる。このようにして、本発明においては、顔面を下に向けてうつ伏せ状態で寝る場合において、目、鼻、口を含む顔面を圧迫することがないうつ伏せ寝用枕が提供される。

【0004】また、請求項2に係る発明においては、請求項1に記載のうつ伏せ寝用枕であって、前記顔面周囲空間部を外界に連通させる外界連通口を設けたことを特徴とするうつ伏せ寝用枕を創出した。かかるうつ伏せ寝用枕によれば、目、鼻、口を含む顔面が外界連通口を通じて外界とつながるため、使用者は息苦しさを感ぜることがなく、より快適に寝ることができる。このようにして、本発明においては、外界連通口を設けることによって、使用者に息苦しさを感ぜさせないうつ伏せ寝用枕となる。

【0005】さらに、請求項3に係る発明においては、請求項1に記載のうつ伏せ寝用枕であって、前記額支持部が前記顎支持部より高くなっていることを特徴とするうつ伏せ寝用枕を創出した。このように、額支持部を顎支持部より高くすることによって、使用者の頭部の額側がより高く支持される。この結果、使用者の頭部がより安定して支持される。これによって、頭部をより安定して支持することができるうつ伏せ寝用枕となる。

【0006】さらに、請求項4に係る発明においては、請求項1に記載のうつ伏せ寝用枕であって、前記顔面周囲空間部を前記うつ伏せ寝用枕を貫通する貫通穴として設けたことを特徴とするうつ伏せ寝用枕を創出した。これによって、顔面周囲空間部を設けることがより容易になり、うつ伏せ寝用枕の製作がより容易になる。

【0007】

【発明の実施の形態】次に、本発明を具現化した一実施形態について、図1乃至図3を参照して説明する。まず、本実施形態において用いられるうつ伏せ寝用枕の全体構造について、図1を参照して説明する。図1は、うつ伏せ寝用枕の一実施形態の全体構造を示す斜視図である。図1に示されるように、本実施形態のうつ伏せ寝用枕2は、基板4と、この基板4の上面に固定される上部

支持板6、下部支持板8、及び上部支持板6の上面に固定される額部支持板10とから構成されている。基板4の中央には貫通穴4aが設けられており、この貫通穴4aを挟む形で上部支持板6と下部支持板8とが位置している。そして、上部支持板6の上面に額部支持板10が固定されている。

【0008】ここで、貫通穴4aは通常人の目、鼻、口を含む顔面が入る大きさで設けられており、額部支持板10と下部支持板8との間隔は通常人の額と顎の間隔に合わせて作られている。これによって、額部支持板10と下部支持板8との間に、顔面周囲空間部16が形成される。また、顔面周囲空間部16の左右において上部支持板6と下部支持板8とが離れていることによって、顔面周囲空間部16を外界に連通させる外界連通口が設けられる。そして、使用者がうつ伏せ寝用枕2の顔面周囲空間部16に顔面を入れることによって、使用者の額は額部支持板10の額支持部12に当接して支持され、使用者の顎は下部支持板8の顎支持部14に当接して支持される。

【0009】次に、本実施形態のうつ伏せ寝用枕2の各部の形状と製作方法について、図2を参照して詳細に説明する。図2は、うつ伏せ寝用枕の一実施形態における各部の形状を示す斜視図である。図2(A)に示されるように、基板4は枕用の材料を適当な寸法(例えば、縦30cm×横40cm×厚さ4cm)に裁断してなる板状部材の中央付近に通常人の顔面が入る大きさ(例えば、直径15cm)の貫通穴4aをくり抜いてなるものである。ここで、枕用の材料としては種々の材料を用いることができるが、本実施形態においては医療用ウレタンマットを使用している。また、図2(B)に示されるように、上部支持板6は略六角形の板状部材に湾曲部6aを設けたものであり、湾曲部6aの曲率Rは基板4の貫通穴4aの半径と同一になっている。

【0010】さらに、図2(C)に示されるように、下部支持板8も略六角形の板状部材に湾曲部8aを設けたものであり、湾曲部8aの曲率Rは基板4の貫通穴4aの半径と同一になっている。また、図2(D)に示されるように、額部支持板10は基板4、上部支持板6、下部支持板8に比べて薄手の部材に湾曲部10aを設けたものであり、湾曲部10aの曲率Rはやはり基板4の貫通穴4aの半径と同一になっている。これらの上部支持板6、下部支持板8、額部支持板10も、基板4と同様に医療用ウレタンマットで作られている。

【0011】さて、本実施形態のうつ伏せ寝用枕2は、これらの基板4、上部支持板6、下部支持板8、額部支持板10が一体に縫い付けられて製作される。すなわち、まず上部支持板6と下部支持板8が基板4の上面に、湾曲部6a、8aを貫通穴4aの縁に合わせて置かれ、糸で縫い付けられて固定される。次に、額部支持板10が上部支持板6の上面に、湾曲部10aを湾曲部6

aの縁に合わせて置かれ、糸で縫い付けられて固定される。なお、本実施形態においては図示されていないが、うつ伏せ寝用枕2の全体を着脱可能なカバーで覆うか(貫通穴4aは貫通させた状態で)、あるいは額支持部12と顎支持部14の周辺のみを着脱可能なカバーで覆うことが好ましい。これによって、長時間の使用により汗等で汚れたカバーを外して洗濯して再使用することで、うつ伏せ寝用枕2の本体が汚れるのを防ぐことができる。

【0012】次に、かかる構造を有する本実施形態のうつ伏せ寝用枕2の使用方法について、図3を参照して詳細に説明する。図3は、うつ伏せ寝用枕の一実施形態における使用状態を示す断面図である。まず、使用者Mが貫通穴4a、湾曲部6a、8a、10aによって形成される顔面周囲空間部16に顔面を入れる。これによって、使用者Mの額は額部支持板10の額支持部12に当接して支持され、使用者の顎は下部支持板8の顎支持部14に当接して支持される。そして、使用者Mの目20、鼻22、口24はいずれも顔面周囲空間部16に面することになり、圧迫されることがない。また、額部支持板10の厚さ分だけ額支持部12が顎支持部14より高くなっているため、使用者Mの頭部がより安定して支持される。さらに、図1に示されるように、顔面周囲空間部16の左右は上部支持板6と下部支持板8とが離れているため外界と連通しており、使用者Mの鼻22、口24には外界からの空気が入り込むため、使用者Mは息苦しさを感じることがない。

【0013】本実施形態においては、基板4、上部支持板6、下部支持板8、額部支持板10の各部材を枕用の材料から切り出して、各部材を一体に縫い付けてうつ伏せ寝用枕2を製作しているが、必ずしもかかる製作方法に限定されるものではない。例えば、図1に示されるうつ伏せ寝用枕2の形状を射出成形法等によって一体に成形することもできる。また、一塊の枕用の材料からうつ伏せ寝用枕2の形状を削り出す方法によることもできる。また、本実施形態では貫通穴4aをくり抜くことによって顔面周囲空間部16が貫通穴となっているが、顔面周囲空間部16は貫通穴でなく凹部であっても構わない。さらに、本実施形態においては、顔面周囲空間部16を外界に連通させる外界連通口を左右二箇所設けているが、外界連通口は一箇所でも三箇所以上設けても良い。うつ伏せ寝用枕のその他の部分の構造、形状、寸法、材質、接続関係等についても、上記の実施形態に限定されるものではない。

【0014】

【発明の効果】請求項1乃至請求項4に係る発明においては、顔面を下に向けてうつ伏せ状態で寝る場合において、顔面を圧迫することがなく、息苦しさを感じることがないうつ伏せ寝用枕を提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係るうつ伏せ寝用枕の一実施形態の全体構造を示す斜視図である。

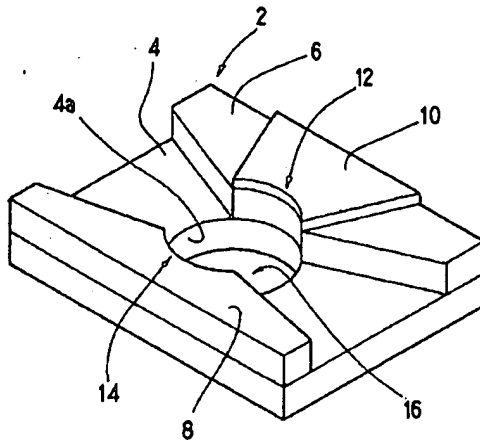
【図2】うつ伏せ寝用枕の一実施形態における各部の形状を示す斜視図である。

【図3】うつ伏せ寝用枕の一実施形態における使用状態を示す断面図である。

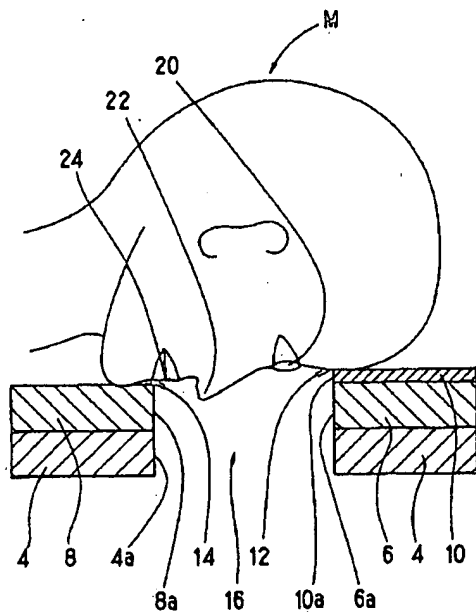
【符号の説明】

- 2 うつ伏せ寝用枕
- 12 額支持部
- 14 顎支持部
- 16 顔面周囲空間部

【図1】



【図3】



【図2】

